

プロとしての介護業務について——その1

今、世の中では様々な仕事の業種があり様々な働き方をしています。今中学生の3大人気の職業はユーチューバーだそうです。これからも予想もしない業種が沢山出てくることでしょう。そして消えていく業種も沢山あります。これからも少子高齢社会は進行して行きますがそれだけではなく2050年にはAIが人間の脳を超えると予想されています。そして物づくりだけでなく形の見えないサービス業にもAIが参入して来ます。そうすると従来の「生きるために働く」という仕事の概念は変わり、週休3日が当たり前になったり、何のために仕事をするか・人の幸せとは何か、という個々人の生き方の概念も再考される時代になって来るでしょう。

いつもお話しするように地球上70億人の一人一人が考え方も感じ方も皆違います。

そんな中で共に生きていくためにお互いが節度を持ってお互いが譲り合いながらお互いが相手の文化を阻害することなく各々自分の人生を歩む、というのが求められる社会人です。

人にサービスを提供する仕事だけでも世の中には様々ありますが、介護業務サービスという業種はこれからの40~50年社会を下支えする基幹産業になるでしょう。私達が選んだ業種は高齢者の介護という仕事です。そしてその中の老健施設の使命を全うするという事です。入所していること自体が生活リハビリを行っていることに通じていると言える介護方法を実践するという事です。

介護はプロでもアマでも本質は同じでしょうが、プロの介護業務の質をより高めるためには身内を介護することとは次元が違うものと考えた方が気持ちの切り替えのために良いでしょう。

感情移入しすぎてもし足りなくても良い介護は出来ません。第3者が初めて見ても違和感がないような対応がプロには必要です。誤解されることがないように、李下に冠を正さず・瓜田に履をいれず、です。具体的には身だしなみ・言葉使い・優しさ・穏やかさなどの態度や姿勢です。

自分では気づかないものですが、上州人はもともと言葉が荒く、第3者が聞くと不愉快に感ずることもしばしばあります。

認知症の方とのコミュニケーションスキルにユマニチュードという方法が知られていますが、これは言葉は通じなくても穏やかさや優しさが感じられるような雰囲気や態度があれば心が通じるということを行っているのです。

自分で気づかないことはお互いに遠慮なく指摘し合って、より良い「プロの介護」を目指しましょう。

老人保健施設一羊館の理念
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。